

## 春は、ネコの目のように気まぐれ

起き掛けに、自宅マンションのビルから裏庭に出て、日の出を観ながらコーヒーを飲む。私の最近の個人的流行です。

様々な鳥の濡れているような鳴き声に浸り、春の迫真性を感じるのです。日が昇り始めるずっと以前から鳴いていた鳥達が、日の出と共に勢いを増します。いつの間にかコマドリの声が近くにありました。カーディナル（和名：ショウジョウコウカンチョウ）が複数の小さな太陽のようにあちこちを紅くしています。モノマネの得意なモッキングバードもいます。今朝は何故か、2月の日本出張の際、烈しいライム色で、目が少し「いっちゃって」いる鳥を観たことを思い出しました。日本から帰ってきてネットで調べてみたら、その鳥はメジロでした。もちろん、メジロはワシントンDCにはいません。

長い冬眠から起き上がったように、ワシントンDCの街も騒ぎ出してきています。音を出しそうなくらいにウルサイ色を身につけて、生まれ変わったように歩く人が道に見えます。春になると、人間同士を結ぶ社会的行動や夜行性の習慣が冬のものから変化するようです。気温の上昇と共に、人の人に対する態度・視線も変わります。

毎年、ジェファーソン記念館の周りに配置されている桜の満開を人々が待ち焦がれます。日本から昔プレゼントされたとされる桜です。ワシントンDCで育つ桜にはいくつか種類がありますが、一番綺麗に光を放つのはやはりソメイヨシノでしょう。

私は、昼間の桜より夜桜の方が好きで、完璧に満開状態だろうと予測できる日に、夜桜を観にジェファーソン記念館近くに寄ってみることに毎年しています。今年の桜は、満開



が4月10日でした。その夜に、私は夜桜見物に行きました。

今年も、夜桜の美しさには心奪われるものがありました。暗い夜空の中にパッと浮かび上がった大量の桜の花。少し離れて眺めると、それは流麗な白い輝きの塊であり、神話上のなにかのようです。例えば、木霊とか、狐火とか、鬼火とか。

その翌日、強い雨が降ったので、私が見た輝きの塊はたぶんそれで流れ去ってしまったはずです。気まぐれな春の天候に負けないよう、10日の晩に夜桜を見に行ってもよかったです。

ワシントンDCでは、有名なサクラ・マツリが、桜が既に散ってしまった後に皮肉な感じで行われます。毎年、もう少し早くしたらいいのに、と多くの人が考えているはずですが、不思議に開催日は早くならないのです。今年は、4月13日に開催されました。桜の開花が例年より遅かったため、今年はけっこうタイムリーになったのではありますが、結局、上で書いた雨が強かったためでしょう、サクラ・マツリのときにはすっかり散ってしまっていました。

気まぐれで儂いものが人間をうっとりさせるのは何故でしょう。皮肉めいて言うと、人が恋愛ゲームを好むからでしょうか。女性の思わせぶりが男を誘惑する方法であるように、めくるめく変化に人は惹かれるのかもしれませんが。でも一方で、桜がいつも満開で、藤やモクレンが毎日香しく開いている、そういう夢のような場所に暮らしたとして、それに私は飽きることがないようにも思えます。儂いゆえ美しい、というのは単なる邪推なのかもしれません。

気まぐれといえば…日本の皆さんは、歌「黒ネコのタンゴ」をご存知でしょうか。私は最近、この歌を知りYou Tubeで聞く機会がありました。小さな男の子（皆川おさむ）がほとんど何の技巧もなく歌っていることが私には面白くて堪りません。子供でありながら、女性の気まぐれを心に苦悩しているようです。

可愛くて愛おしい声で、気まぐれな恋人の黒ネコに気持ちが奪われ翻弄されている男心を、

～素敵なキミが 街を歩けば  
悪いドラネコ 声をかける～  
～おいしいエサに いかれちゃって  
後で泣いても 知らないよ～  
と歌い上げます。

たぶん、歌手の男の子は、歌詞を読んでいるだけで内容を十分に理解していないのだろうとは思いますが。



歌詞の中の主人公が奥底で望んでいることは、恋そのものではなくて、心理学上の“閉合 (Closure)”ではないかと思えなくもありません。私たちが春を待ち焦がれる理由もそうではないでしょうか。夏が来るのが早すぎ、春に「振られた」気持ちを乗り越えるために、また改めて別の春と出逢いたくなるのです。そしてその春もやはり儂く過ぎていく。そのため、また次の春を待ち焦がれるのです。黒ネコの恋人と同様に、その悪循環が続いて、好きになって、振られて、また好きになって、また振られて…「ラララララ、ラッラ」。

去り行く春を残念に思い続けるくらいなら、いっそのこと、自分の中に、自分の手で春を造るのがいいのです。そしてそれを満喫すればいいのです。画家がキャンバスに春の残像を画いて残すように、自分の中に春のインスピレーションを保てばいいのです。春が過ぎ去っても、心の中に春の臨場感を感じればよいのです…「ラララララ、ラッラ」。

### 筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLP に弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ鶯が身を焦がす」。